

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2019

「健やかに生きる ～大学は知の宝庫～」

第10回 12/17 (火) 13:30～15:00 報告

モーツァルトは子守唄を歌わない？

講師 菅野道雄 (本学教授)

於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*

令和元年度第10回公開講座(受講者24名)が12月17日に開催されました。子ども発達学科の菅野道雄先生による「モーツァルトは子守唄を歌わない？」と題された講演テーマは、同タイトルの推理小説／森雅裕著(江戸川乱歩賞受賞)から設定されました。モーツァルトの死の謎をベートーヴェン探偵が助手のツェルニー(チェルニー)君とともに解決するというユニークな内容です。この物語で重要な鍵となるのが「子守唄(子守歌)」というわけです。モーツァルトの子守歌から始めて、さまざまな作曲家取り違えのエピソードや出版社の確信犯的な策略など、実際にCD鑑賞を交えて紹介されました。

ベルンハルト・フリース(1770頃-?)またはフリードリッヒ・フライシュマン(1766-1798)『モーツァルトの子守歌』

作曲者自身がタイトルにモーツァルトの名前を追加したというより、出版社が販売利益を上げる目的で行ったと考えられています。

ヴェンツェル・ミュラー(1767-1835)(?)『モーツァルトのグローリア ミサ曲ト長調 K. Anh. 232』から

菅野先生が高校時代に合唱を学び、他校の合唱団がこれを歌い、その後小中学校でもよく取り上げられた曲ですが、モーツァルト作曲と明記されていることは偽りであることが判明しました。実際のところ作曲者は不明です。

ミヒャエル・ハイドン(1737-1806)『モーツァルトの交響曲第37番 K. 425a / Anh. A53 第1楽章』

1783年モーツァルトはオーストリアのリンツの伯爵に招かれ、新しい交響曲を作って演奏することを命じられました。スコア作成だけでも大変な労力を費やす作業ですが、パート譜まで完成して演奏したことから天才であると絶賛されました。この曲はモーツァルトの自筆も残っていたことから本人作曲の作品と思われてきましたが、実際はハイドンの弟ミヒャエルの作品に追加したものであることが明らかになりました。追加した部分はモーツァルトらしい明るく軽快なイメージに仕上がっています。

エトムント・アンゲラー (1740-1794) 『おもちゃの交響曲』

1960年代まではハイドン作曲の作品と言われていました。その20年後、中野博詞（ハイドン研究の大家）がこの曲はレオポルト・モーツァルト（ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの父）の作品であることを発見しました。しかし、その後さらに古い資料が見つかり、アンゲラーの作品であることが判りました。おもちゃ楽器を用いた楽しい演奏になっています。

クリスティアン・ペツォルト (1677-1733) 『メヌエット ト長調』

この作品はバッハが2度目の妻に贈った練習帳に含まれていたもので、バッハのメヌエットとして広く知られてきました。作曲者の名前が書かれていなかったために起こった誤解であり、近年修正されました。

レモ・ジャゾット (1910-1998) 『アルビノーニのアダージョ』

アルビノーニ作曲の『ソナタ ト短調』に基づき、レモ・ジャゾットが編曲したというのですが、明らかな偽作で、儲け主義の確信犯と言えます。

アレッサンドロ・パリゾッティ (1853-1913) 『もしあなたが私を愛してくれて』

この作品はジョヴァンニ・バッティスタ・ペルゴレージ (1710-1736) が作曲したと言われていましたが、現在ではアレッサンドロ・パリゾッティ作曲という説が強いです。パリゾッティはイタリア歌曲集を編纂した作曲家であり、現在掲載されているイタリア歌曲の大半はパリゾッティがピアノ伴奏版に編曲したものです。

フリッツ・クライスラー (1875-1962) 『プニャーニのスタイルによる前奏曲とアレグロ』

バイオリンの名手であり作曲家でもあるクライスラーですが、自作の曲だけでは売れない頃、昔の有名な作曲家の名を借りた作品を演奏するという偽作もあります。後に、この方法であれば気楽に聴いてもらえるための策であったことを語っています。

ウラディーミル・ヴァヴィロフ (1925-1973) 『カッチーニのアヴェ・マリア』

ヴァヴィロフ作曲の歌曲ですが、自作に古典作曲家の名を借りて発表することがよくありました。歌詞においては、ひたすらアヴェ・マリアが繰り返され、最後に一言アーメンというだけであり、いかにも偽物とわかる曲です。しかしながら、とても美しい曲です。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791) 『ラクリモーザ (涙の日) レクイエム K. 626』から

モーツァルトの死により未完成の曲として有名です。謎の依頼者がモーツァルトをゴーストライターに仕立てようとした事実もあります。天才モーツァルトが自身のためにレクイエムを作曲したという伝説もありますが、実際は謎の依頼者であるフランツ・フォン・ヴァルゼック伯爵がモーツァルトに作品を作らせ、自身の名で発表したのが真相です。

【講座の様子】

